

令和6年度みんなで支える森林づくり地域会議等の開催状況

地域振興局	回数	開催日				主な内容	概要
佐久	第1回	令和6年	9月	25日	(水)	・令和5年度事業実績及び 令和6年度事業について ・現地視察（御代田町面替）	—
	第2回	令和7年	2月				
上田	第1回	令和6年	9月	25日	(水)	・令和5年度事業実績報告 ・令和6年度事業計画説明 ・現地視察	—
	第2回	令和7年	2月				
諏訪	第1回	令和6年	9月	20日	(金)	・令和5年度事業実績報告 ・令和6年度事業計画説明等 ・現地視察	P1～
	第2回	令和7年	2月				
上伊那	第1回	令和6年	9月	25日	(水)	・令和5年度事業実績報告 ・令和6年度事業計画説明等	
	第2回	令和6年	12月				
南信州	第1回	令和6年	11月	6日	(水)	・令和6年度事業計画説明 ・現地視察（根羽村合川山）	—
	第2回	令和7年	2月				
木曾	第1回	令和6年	8月	27日		・令和5年度事業実績報告 ・令和6年度事業計画説明等 ・現地視察	—
	第2回	令和7年	2月				
松本	第1回	令和6年	11月	下旬		・令和6年度事業計画説明 ・開かれた里山現地視察等	
	第2回	令和7年	3月				
北アルプス	第1回	令和6年	8月	21日	(水)	・令和5年度事業実績報告 ・令和6年度事業計画説明 ・意見交換	P4～
	第2回	令和7年	2月				
長野	第1回	令和6年	10月	30日	(水)	・令和5年度事業実績 ・令和6年度事業について ・現地視察（信濃町富が原）	—
	第2回	令和7年	1月				
北信	第1回	令和6年	7月	16日	(火)	・開かれた里山整備について ・令和5年度事業実績報告 ・令和6年度事業計画説明	P8～
	第2回	令和7年	2月				

令和6年度 みんなで支える森林づくり県民会議の開催状況

	第1回	令和6年	9月	5日	(木)	・令和5年度事業検証評価 ・令和6年度事業計画概要 ・その他	—
	第2回	令和6年	11月	18日	(水)	・現地視察（山形村・塩尻市） ・令和6年度事業の進捗状況等	

令和6年度 第1回みんなで支える森林づくり諏訪地域会議 議事録

開催日時：令和6年9月20日（金） 13時30分から16時30分まで

開催場所：【現地視察】岡谷市

【会 議】諏訪合同庁舎 502号会議室

出席者：【構成員】（五十音順、敬称略）

片倉 正行、中村 くすみ、藤森 良隆（座長）、宮坂 佐知子

【事務局】

（諏訪地域振興局）

竹花 顕宏 地域振興局長、小島 奈美子 林務課長、青木 竜一郎 治山林道係長
山崎 昭典 林務係長、久保田 淳 普及林産係長

要 旨：

【現地視察】13時30分から15時30分

視察1：主伐・再造林

岡谷市 沢入地区



視察2：治山事業（令和3年8月・9月豪雨災害）

岡谷市 小田井沢



【会議】15時30分から16時30分

要 旨：

■会議事項（1）令和5年度森林づくり県民税活用事業の実績について

（事務局）

資料1により説明（説明者：山崎）

（片倉構成員）

地域で主伐・再造林によりゼロカーボンを進めるためには、高齢級化した森林を伐採し、植栽などにより新しい森林を造成する必要があることについて、地域住民の方々に分かりやすいアナウンスが必要だと考えられるのでお願いしたい。特に、伐採については森林のために必要だという事を地域の方に説明してほしい。

また、河畔林整備についてニセアカシアなどが繁茂しているが、溪岸などは危なくて素人では手が出せないなので、積極的に事業を行っていただきたい。

（事務局）

主伐・再造林については、令和5年度に林務部で策定した「主伐・再造林ガイドライン」において、地域住民との合意形成についても行うよう定められている。管内の林業事業体などに対してもガイドラインに沿った主伐となるよう、地域住民の方々への周知も含め県も協力しながら進めていく。

（片倉構成員）

伐採の必要性について、マスコミなどの協力をもらいながらアピールしていただきたい。

■会議事項（2）令和6年度森林づくり県民税活用事業の実施状況について

（事務局）

資料2により説明（説明者：山崎、久保田）

（藤森構成員（座長））

各事業の進捗状況はどうか。

（事務局）

説明

（藤森構成員（座長））

令和5年度の実績に対し、令和6年度の実施予定金額が増えているが、積極的に進めているという理解で良いか。

（事務局）

令和5年度は第4期森林税のスタートの年であり、第3期目の森林税からも大きく事業が変わった経過がある。その中で、県の体制づくりや市町村等の事業主体による事業申請などが多少遅れたが、今年度は2年目ということもあり、順調にスタートが切れたと考えている。また、市町村森林整備支援事業については、令和6年2月に発生した雨水害や雪害によるライフライン対策で要望量が増えている。

(中村構成員)

治山事業(山腹工事)を現地で見させてもらったが、山腹面については実生の植物により森林へ復元していくと説明があったが、どのくらいで落ち着いてくるのか。

(事務局)

可能であれば実生により復旧していきたいと考えているが、数年たっても更新してこないような状況が出てくれば、植栽等を検討する事が保安林管理上でも必要になってくる。

(宮坂構成員)

第3期森林税から第4期森林税への移行により、多くの事業や制度が変わったが、移行に伴っている歪みが出ないか気がかりである。また、伐採についてもどの木をどの位切って良いのかなど、一般の方や民間の事業者が知らない事も多いため、森林や木などに対する普及の場などを作っていただきたい。

(事務局)

地元説明会などの場で色々な選択肢を示しながら、森林GIS等の電子データなどで説明し、実際に山と一緒に歩いて提案をしている。山の事をあまり知らない方も結構いるため、机上だけではなく現場での話を大事にしており、今後も同様に普及啓発等を行っていきたい。

(片倉構成員)

一般の方には森林は切るべきではないという風潮があるが、それを何とかして穏やかに修正していかないと、主伐・再造林が思うとおりに進んでいかないと考えられるので、ぜひ啓発をお願いしたい。

(藤森構成員(座長))

短い時間ではありましたが、それぞれの立場から貴重なご意見をいただいた。第4期の森林税は2年目を迎えたわけだが、構成員のみなさまの立場で今後も検証をお願いしたい。

令和6年度 第1回みんなで支える森林づくり北アルプス地域会議

開催日時 令和6年8月21日（水）13:30～16:00
開催場所 北安曇郡池田町大峰高原（現地調査）、北アルプス市町村会館2F大会議室
出席委員 小山委員、鈴木委員、長沼委員、西澤委員、藤原委員、丸山委員、渡辺委員
事務局 藤澤林務課長、三村林務係長、山田普及林産係長

現地調査

(1) あいさつ：北アルプス地域振興局 藤澤課長

本日は、今年度第1回目の「みんなで支える森林づくり北アルプス地域会議」を開催しましたところ、ご多用中の中、ご出席いただきありがとうございます。

また、ご参集の委員の皆様には、常日頃からそれぞれのお立場で北アルプス地域の振興にご尽力を賜り厚く御礼申し上げます。

この地域会議は、地域でご活動されている幅広い分野の方々に委員にご就任いただき、長野県森林づくり県民税及びこれを活用した事業についてご意見を頂き反映させていただくことを目的としております。

委員の任期は、3年間ということで、令和6年4月1日から令和9年3月31日と長期にわたりますが何卒よろしくお願ひします。

長野県森林づくり県民税は、平成20年度から1期5年間ということでスタートいたしまして現在、令和5年度から4期目に入っております。

お手元の「森林税のパンフレット」をご覧ください。森林は雨水を蓄えてきれいな水を育んだり、土砂崩れを防いだり、二酸化炭素を吸収したり、私たちの暮らしを支えており、誰もが森林の恵みを受けています。この恵みを今後も受けられるよう個人の皆様から500円を頂戴いたしまして、里山の手入れなどを進めています。パンフレットの中をお開きください。具体的な活用としまして、一つ目は「森林の若返り促進と安全・安心な里山づくり」を目指し、主伐・再造林や間伐などに活用されております。二つ目は「森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり」を目指し、里山整備とその仕組みづくりや、公共施設の木質化などに活用されております。三つ目は「森林・林業活動に取り組む多様な人材・事業体への支援」を目指し、森林セラピーや人材育成などに活用されております。四つ目は「市町村と連携した森林等に関連する課題解決」を目指し、ライフライン沿いの支障木の伐採や松くい虫被害対策などに活用されております。

本日の地域会議では、令和5年度の実施状況につきまして、池田町で実施した事業箇所の現地調査を交えましてご報告させていただき、加えて、今年の事業計画についてご説明させていただきます。

限られた時間ではありますが、今後の北アルプス地域の森林づくりのために、幅広く忌憚のないご意見を頂けますようお願いいたしまして簡単ではございますが、冒頭のご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願ひします。

(2) 令和5年度みんなで支える里山整備事業地（北安曇郡池田町大峰高原）現地資料 【防災・減災のための里山整備施工地】

- ・土砂災害や流木被害等を防止するため、これまで手入れがされず災害等の危険性が高い里山で行う間伐等整備を実施。
- ・間伐により林内照度を改善させ、残存木の枝葉の成長を促し太く根張りの良い立木を育てる。また、下層の広葉樹を育成し、多様な樹種からなる災害に強い森林を目指す。



会 議

- (1) 令和5年度森林づくり県民税活用事業の実績 資料1
- (2) 令和6年度長野県森林づくり県民税事業の内容及び目標 資料2
- (3) 令和6年度森林づくり県民税活用事業の実施計画 資料3

(渡辺委員)

今年度から再造林推進シカ捕獲サポート事業が新規追加されたとのことですが、伐って植えるまではマニュアルどおり行えばいいが、その後の獣害対策が難しいと思っています。私も林業事業者としても植えた以上は育つまで見守る責任があるが、シカ増えていることを懸念しています。美麻地区にはジビエの食肉処理施設があり、年間150頭処理しているが増え続けているので、今後の再造林が心配されます。

この、再造林推進シカ捕獲サポート事業の詳細な説明をお願いします。

(林務課 三村企画幹)

猟友会の皆さんがくくりワナを設置し毎日見回らなければならないので、その負担を軽減するために、林業事業者の皆様に見回りの協力をお願いし、捕獲を進めていくことがこの事業の主旨となっており、見回り活動に要する経費や安全作業の研修や技術的指導の経費、ICT 機器購入経費などが補助メニューとなっております。

(小山委員)

大町市ではどのような捕獲対策を行っているのか。

(丸山委員)

大町市の捕獲については、猟友会に委託していますが猟友会に対して見回り費用は出していません。

(長沼委員)

猟友会の立場で申し上げます。捕獲されたときに報酬が発生する委託契約となっております。例えば10日間見回りを行ったが1頭も捕獲できない場合は無償となります。

(丸山委員)

見回りの安全確保も重要であります。クマの錯誤捕獲が多く、猟友会の皆さんなら危険回避の対応ができると思うが、林業事業体の方に危険回避の対応ができるか、怪我した場合はだれが補償するのかなど問題があり、このような状況で市町村が事業主体となることは難しいと考えています。

(林務課 三村企画幹)

今年の6月に塩尻市でそのような事故が発生しています。クマの錯誤捕獲があり見回りに行った市の職員が怪我をいたしました。

(丸山委員)

地域振興局から、再造林推進シカ捕獲サポート事業要望がきたとき、そのような安全面での課題から事業実施は困難と判断し要望を見送りました。

(渡辺委員)

危険に対するマニュアルを整備してからではないと、事業導入は難しいということか。

(林務課 三村企画幹)

課題は認識しました。捕獲も猟友会任せだと進まない面もあることから何とか考えていかなければならないということで、このような被害者側である林業事業体と連携した事業展開へ進んだということです。

(渡辺委員)

猟友会の方は負担が大きいですか。

(長沼委員)

狩猟を趣味とする人が集まった団体が猟友会であり、シカが増えたことにより個体数調整許可の依頼を受けた猟友会しか捕獲できないことも認識しています。しかしながら、それぞれ仕事もあり、常に捕獲活動ができるわけではなく、限られた時間の中で、捕獲を行っているのが現状です。

捕獲作業を行っているの感覚ですが、シカは著しく増えています。いままで予想もしなかったところまでシカの痕跡が見られるようになりましたので、捕獲圧を上げることが重要と認識していますが、簡単に捕獲できるものでもないです。

(小山委員)

現地調査いただいた現場そうですが、切株から萌芽を育てようとしていても、それが食害を受ける状況です。この事業の対象範囲は造林地だと思うのですが、植栽木がなくてもシカ被害はあるので造林地以外の対策も検討していただきたいです。

(丸山委員)

見回りの支援金の単価など具体的なルールが不明なので取り組みにくいので検討していただきたい。

(三村企画幹)

クマの錯誤捕獲の対応等も含めて県庁に意見を伝えて具体的に取るような情報提供に努めます。

(小山委員)

国の施策がスギ花粉対策にシフトしている。現状あるスギを伐採しスギ花粉が出ないスギを植栽するか、他の樹種を植栽する施策を展開しています。しかしながら、北アルプス地域では、大町市より北部の小谷村、白馬村でスギが見られるが、大町市より南部の池田町、松川村、大町市はあまりスギがありません。それよりも池田町、松川村、大町市南部で松くい虫被害がかなり拡大していることから、林業事業体としては松くい虫被害対策を推進していますが、スギ花粉対策に施策がシフトしていくと松くい虫対策が手薄になることが懸念されます。

全国的にはスギが問題であることは認識していますが、この地域はスギが少なく、

アカマツ対策に大きな課題を抱えているので、地域の特性に応じた対策を森林税で対応していただきたいです。

(林務課 山田補佐)

森林税では、市町村の支援事業の中で松くい虫被害対策で実施していただくことになります。なお、森林づくり事業の保全松林事業の予算が今後減少してく見込みであることから、この森林税で対策ができないか県庁と相談しながら進めてまいります。

(丸山委員)

以前は、市町村で自由に使用できる推進支援金があるときは、松くい虫被害箇所自由に使うことができ、家の裏などでも緊急的に実施することができました。その事業を復活することはできないでしょうか。

(林務課 山田補佐)

一旦、終了したものが復活することは難しいと考えております。

(渡辺委員)

森林づくり県民税、森林環境譲与税などそれぞれの違った役割があることや制度、補助金などがあることについて、複雑なイメージがあります。譲与税については、自由さをうたっているにもかかわらず活用されていない印象があります。これは、林業事業体に対しても、県民に対しても説明不足が原因となっていると思います。

県民目線でいえば、森林税が課税され、更に、森林環境譲与税も課税されるのかという印象になっていると思うので、県民へ分かりやすい説明をしていただきたいです。

(林務課 藤澤課長)

資料3でも説明したとおり、要望がないメニューがあつたりするなど、私どものPR不足の部分があり反省すべきことと理解しております。

一つには、このような会議を通じて、委員の皆様も関係するところへ情報発信していただければありがたいです。また、県といたしましても県民の皆様へ伝えていく努力を行ってまいります。

(藤原委員)

里山を活用した教育への活動など、地域でこの事業を活用したい場合は、市町村へ相談すればよろしいですか。

(林務課 藤澤課長)

地域振興局へ直接相談いただいても結構ですし、市町村へ相談いただいても結構です。

(丸山委員)

森林環境譲与税は森林整備が目的になっていますが、既存の補助事業には使えないルールがあります。国や県で補助事業があると同じメニューで使えない場合があるので、それ以外のものを大田市ではメニューを考えて実施しているところですが、制度が始まったばかりで国からも具体的なメニューが示されていないので、手探りでやっている状況ですが実施したい事業があれば相談いただければと思います。

(林務課 藤澤課長)

貴重なご意見有難うございました。

以上で、令和6年度第1回みんなで支える森林づくり北アルプス地域会議を終了いたします。

令和6年度 第1回みんなで支える森林づくり 北信地域会議概要

北信地域振興局林務課

1 開催日時

令和6年7月16日（火） 12時40分～16時30分

2 開催場所

- ・現地調査 飯山市 小境・鷹落山麓地区（開かれた里山の整備・利用推進事業）
- ・会議 長野県北信合同庁舎 講堂

3 出席者

・構成員

上野構成員、小嶋構成員、高村構成員（座長）、中澤構成員、藤田構成員、山岸構成員

・小境・鷹落山麓里山整備利用推進協議会

事業担当者

・北信地域振興局

小池局長、坪井林務課長、神谷企画幹、松尾課長補佐、川村事務員

4 会議事項

- (1) 開かれた里山の整備・利用推進事業について（資料1）
- (2) 森林づくり県民税活用事業 令和5年度実績・令和6年度計画について（資料2）

5 質疑応答（①～④：質問・意見 →：説明・回答）

(1) 開かれた里山の整備・利用推進事業について

里山整備利用推進協議会担当者から、資料1で事業計画を説明

- ①里山整備利用推進協議会では、地域住民の理解をいかに得るかが重要。
地域の役員は毎年変わる中、事業ではどのように地域の協力を得ていくか。
→当該地域は穀倉地帯で、地域にとって「水」への関心は非常に高い。
水＝森であり、地域住民は森をどう維持管理するかで悩んでいる。
自身が集落に移住して以降、地区の「おてんま作業」に関わっているが、過疎高齢地域で森の全てを管理するのは大変。地域外のマンパワーを活用した森の管理を区に提案し、他事業等で整備実績を積み上げる中で地元理解を深めてきた。
- ②学生と一緒に伐った山の木を建物に活用した一連の取組（元気づくり支援金事業）はとても良い取組。計画されている事業でも学生に森のことを伝えてほしい。
- ③山の整備は、補助金で賄われることが多い。補助金は未来永劫でない中、外部の手を借りて整備を進める上で、人材を確保し続けることは可能か。
→補助金頼みだと、継続性に不安はある。この5年の活動で培った繋がりがある。
森林税は活用しつつ、大学卒業後も何とか継続して来て貰えるよう取り組みたい。
- ④計上している予算はどのような内容に活用する予定か。
補助金を活用して最終的に手弁当で来て貰える仕組みづくりができる内容か。
→令和7年度は道の整備に充てる以外は未定。令和6年度は森林整備イベントの講師謝金、イベントで使うチェーンソー等の資機材整備に充てたい。
- 我々も補助金は時々活用するが、用途など厳密。大変だが頑張っていたきたい。

(座長)

- 意見が出揃ったので、これまでのご意見を踏まえ、地域会議として事業計画を承認することとしたいがいかが。(異議なし)
承認ということで、事業を進めていただきたい。

(2) 森林づくり県民税活用事業 令和 5 年度実績・令和 6 年度計画について

地域会議事務局から、資料 2 で税事業の北信地域の実績・計画を説明

→昨年度の地域会議において、管内の森林税活用額が県全体の 2%程度と低調とのご意見をいただき、局として事業確保等の調整に取り組んできたところ。

令和 6 年度の北信地域の予算額は 2370 万円ほど、県予算に占める割合は 4.2%で、森林税の徴収規模である人口割の指標で見た場合、北信管内は 4.0%なので、相応規模の予算額と考えている旨説明。

①初めて会議に参加して説明を受けたが、県民税が多岐に渡って予算が仕分けられており、森林整備だけでなく色々な事業に充てられていることを初めて知った。

- 木工工作の体験事業は、自身が所属する団体の事業。

木工工作コンクールは全国で 15,000 件の応募があるが、長野県はその内 4,000~5,000 件の応募と、かなり多くの応募はあるが、最高賞である文部科学大臣賞は、未だ受賞していない。何とか受賞出来るよう頑張るので、森林税の支援を引き続きお願いしたい。

- 森林税は里山整備など、伐採中心の事業であるが、木材利用といった出口対策が、まだまだ必要と考える。製材加工といった川中への支援では何が良いかすぐに思い浮かばないが、製材工場がどんどん減少する中、何らかの支援が必要と、常々感じていた。今回、会議参加の機会があったので、意見したところ。

→山の木が成熟する中、今後における木材活用は森林整備と合わせ、車の両輪。報道にもあるように木材産業は大規模工場と中小規模工場の格差が大きく、中小工場は後継者確保で苦慮し、会社存続そのものへの影響があるとも聞いている。木材利用における森林税の活用については、例えば後継者確保対策など考えられることがないのか、県でも知恵を絞る必要がある。

皆さんからアイディア、ご意見をいただくとともに、会議でそのようなご意見、ご要望があったことを、県に伝えてまいりたい。

- この場ですぐ言えるアイディアはないが、どのような支援があれば中小零細の製材業が事業継続できるか、同業者の集まりでも話してみたい。

②やはり将来の人材を育てることは重要。地域資源を活かした魅力的な産業であることを高校ではどう伝えているか、参考までに聞かせてほしい。(校長先生への質問)

→下高井農林高校では 2 コースの内、環境創造コースが林業関係についても学ぶコース。竹林の整備と竹の活用に取り組んでいる。地域とのつながりでは、遊歩道や林道を整備し、観光活用など地域貢献できるような取り組みを行っている。

学校では学年の枠を超えて、デイキャンプで火おこし、ピザづくりなど、農林高校らしい、木に親しむ活動を通じて、地域を担う人材になってほしいと願っている。

→今年、中野市のイベントで公園内の樹木が倒れ、子供が怪我する事故があった。公園樹木の確認については、市から指定管理団体に調査要請があり、必要なものは樹木伐採が始まっている。このような樹木伐採は、森林税の支援対象となるか。

- 現在行われている、街中の緑地整備については、建設部で予算執行しているが、建設部のグリーンインフラ推進計画の位置付けがあり、エリアビジョンを策定した市町村のみが事業の対象となっており、現時点ではごく一部の市町村のみが対象であるため、幅広く、満遍ない支援という形ではない状況。
予算的な限りもあるとは思われるが、公園樹木の伐採についても、森林税の事業対象としてほしい旨の要望があったことを、県に伝えてまいりたい。
- ④会議全体を通じての感想であるが、昨年の地域会議で出された意見に対して、良く対応していただいている印象を受けた。
- ⑤小学校、中学校、高校等、再編において、校舎についても検討されているが、そのようなところに県産材が使われることで、木の温もりを感じられることは大切。可能であれば、積極的に県産材が活用されるよう取組を進めてほしい。
- また、木工教室の開催において、本格的な施設整備ということではなく、比較的簡単に取り組めるような支援があると良いと感じた。
- 学校等の木造木質化について、なるべく県産材を活用してほしいことから、今年度は各市町村を回り、教育委員会も含めて説明・要請をしてきたところ。
予算面から、大規模な事業は国庫補助事業を、小規模な内装木質化などは森林税の活用が現実的。森林税に限らず、県産材の活用推進に取り組んでまいりたい。学校の森林体験については、地域の高水林業協議会という団体が行っているため、学校の声もお聞きしながら連携できるよう取り組んでまいりたい。
- ⑥森林が放置され、災害につながることを防ぐよう、森林所有者の皆さんも山を持っていて良かったと言って貰えるよう、良い循環で森林が管理されるよう、私たち森林組合も森林整備を頑張りたい。
また、再生林の苗木不足という問題もあるので、そちらもお願いしたい。
- 栄村森林組合でも主伐再生林の取組が始まっているので、そのような取り組みを多くの方に見て貰うこと、県としても連携して取り組みたい。
また、苗木の確保については再生林で重要な話。苗木確保のための調整がしっかりとされるよう、県に伝えてまいりたい。